

資料 8

1/11公募説明会で受けたご質問に対する回答一覧

No	質問内容	回答
1	2/3の公募期限までに業務アプリベンダや発注企業、受注企業の費用を正式に確定させることが難しいと考えている。特に、アプリベンダがコンソーシアムに参加し、パッケージをカスタマイズする事になった場合等は、申請段階で費用を確定し、必要書類を提出する事が難しい。そのような場合の対応については、どうすればよいのか？	申請書には、その時点で記載できる内容で記載いただき、確定していない事項についてはその旨を申請書に記載してください。採択後、契約までに詳細を確定いただきます。 ただし、採択の評価に係るような大きな変更は認められない場合があります。 また、「商品化されている汎用的な業務パッケージ」のカスタマイズについて対応にお困りの際は、申請段階でも事務局にご相談下さい。
2	複数コンソーシアムが同一のアプリベンダを使用している場合、事務局で調整を行って頂くことは可能か？	当事業では、アプリベンダが会員であるCSAJ（一般社団法人コンピュータソフトウェア協会）と連携をとりながら事業をすすめています。 中小企業に普及しているパッケージアプリでの実証を想定することで、他のコンソーシアムとアプリベンダの重複が想定される場合は、そのアプリベンダがCSAJに加盟していることが想定されますので、申請以前でも事務局にご相談下さい。
3	管理企業は民間企業、大学、あるいは研究機関でも良いか？	応募資格に記載の通り、プロジェクト管理法人は、民間企業、大学、あるいは研究機関であっても問題ありません。 ただし、プロジェクト管理法人は、本事業の主旨から、実証終了後に普及計画を実現できる法人であっていただきたいため、それを踏まえたご判断をお願いいたします。
4	テストベッドでダミーデータを使用し、得られた結果を検証結果として良いか？	実際と同様のデータを使用することで、その比較を行うことが出来ることが望ましくはありますが、実際と同様のデータの利用が難しい場合は、ダミーデータで検証していただくことも可能です。
5	「中小企業の国際化を支援する」と説明があったが、為替については、どう考えているか？	日本円以外の通貨の精算については、契約時に事務局と協議の上、詳細を決定することを想定しています。
6	事務局と管理企業の間で結ぶ契約書のドラフト版を、契約前に確認することは可能か？	契約詳細については、採択後に事務局と協議をし決定いたしますが、コンソーシアム形成にあたり、契約上の懸念により調整が滞る場合は、事務局にご相談下さい。
7	日本版バイドールで“委託契約者に権利帰属”と記載されているが、“委託契約者”とは、ITCAのことを指しているのか、コンソーシアム側を指しているのか？	国（中小企業庁）とITCAの間で適用される日本版バイドール法が、ITCAとコンソーシアム間でも継承されるように契約を行いますので、本事業の開発物等の権利については、コンソーシアム側に権利が帰属いたします。 詳細な取り決めについては、採択後契約時までに事務局と協議して行います。
8	アプリベンダがいないコンソーシアムも有りうると話があったが、業務アプリのカスタマイズ、連携プロバイダが提供するサービスのカスタマイズがない場合はあるか？	アプリベンダがコンソーシアムにいない場合とは、受発注企業が自社開発でアプリを持っている場合などを想定しています。 そのような構成であっても、コンソーシアムとして提案可能です。 ただし、本事業は、事業終了後の「普及化」を構想しているため、普及を想定した取り組みを提案してください。
9	Excelはアプリという認識で良いか？ 受注企業、発注企業ともにすでにITを導入していることが前提か、それとも、導入していない企業でも良いか？	Excelを業務アプリと位置付けた提案も可能です。 ただし、【回答No.8】同様、普及を想定した取り組みや、生産性向上に繋がる提案をしてください。
10	実証検証の期間中にアプリベンダのサポートを得られない場合、パッケージを入れ替える事を検討しないといけないと思うが、採択後にコンソーシアムの変更は可能か？	【回答No.1】にあるように、契約時点で、アプリベンダを確定していただきますので、原則変更はできません。 万一、委託事業実施中に計画の変更や問題の発生が予想される場合は、可能な限り事前に事務局にご連絡下さい。
11	コンソーシアムに同一の発注企業、受注企業があっても良いか？	問題ありません。 多層での受発注の検証を行う際には、コンソーシアム内に同一の発注企業、受注企業が属することを想定しています。